



令和6年9月発行 No.6-14(牛)
埼玉県川越家畜保健衛生所
電話 :049-225-4141
FAX :049-226-9653
緊急携帯:090-7191-3473
Eメール : r254141@pref.saitama.lg.jp
(夜間、土日祝日は緊急携帯に転送)

家畜衛生だより

ランピースキン病(届出伝染病)国内で初発生！

令和6年11月6日、福岡県の乳用牛飼養農場で、ランピースキン病の発生が国内で初めて確認されました。

その後、福岡県(7農場)、熊本県(1農場)でも発生が確認されています。

本病は致死率が低いものの、ウイルスが環境中で長期間生存し、経済的損失をもたらします。

ランピースキン病とは

原因:ポックスウイルス

症状:皮膚の多数の結節や水腫、発熱、泌乳量の低下等、死亡率1~5%

発生時の対応:①当該牛の隔離

②ワクチン接種又は淘汰

③牛・生乳等の移動・出荷自粛

有効な消毒剤:エタノール、次亜塩素酸ナトリウム、逆性石けん等

※人への感染は報告されていません。ワクチンは国が備蓄しています。

畜産現場で一般的に使われている消毒剤が有効です。



提供:農林水産省



出典:FAO ウェブサイト

～詳しい症状や、対策については裏面をご覧ください～

普段と違う症状などがありましたら、
家畜保健衛生所までご連絡ください。



ランピースキン病

MAFF
農林水産省

Point

国内で、2024年11月6日に発生が確認されました

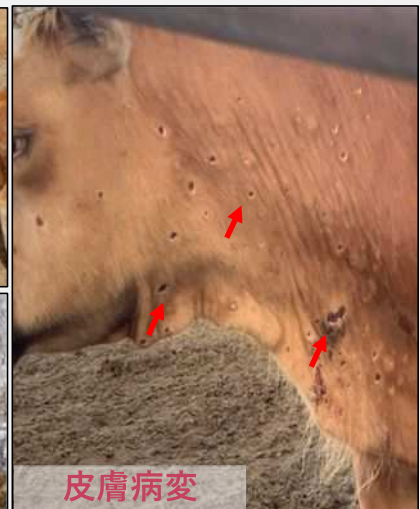
ランピースキン病は、ランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病。主に、蚊、ハエ、ダニの媒介による機械的伝播や、感染した牛の移動により感染が拡大します。感染した牛は、全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状を呈し、生産性に影響を及ぼします。

ランピースキン病を疑う症状

発熱、鼻汁
皮膚の結節
泌乳量の低下
リンパ節の腫大



疑わしい場合は
直ちに連絡！

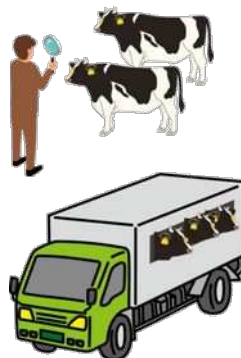


写真提供：モンゴル国中央獣医学研究所
(State Central Veterinary Laboratory in Mongolia)

ランピースキン病の侵入防止対策

01 毎日の健康観察

早期発見・早期連絡が重要。
疑わしい牛は隔離し、牛の導入、
出荷、移動時は健康観察を徹底。



02 害虫の駆除

殺虫剤の散布とともに、
粘着シート等も活用。



03 清掃・消毒

衛生管理区域内の整理整頓を徹底し、飼養管理に使用する器具や畜舎等の施設は清掃と消毒を実施。